

大館市農協

果樹選果所

期待されて初稼動

この施設は、雇用の場を確保し、選果作業の省力化や、肥培管理を徹底することで品質向上を目指すし、経営の安定向上を図ることを目的に、農村地域活性化緊急対策事業（国と市で補助金を交付）により、大館市農業協同組合が事業主体で建設され、昭和六十三年三月に竣工しました。

栽培農家

これまでは

市内の果樹栽培農家戸数は、九十三戸ですが、そのほとんど

は、りんごやなしと稲作の複合経営農家です。

数年前から省力化と経営の効率化のために、りんごのわい化栽培の定着化を図ったり、なしの栽培を長十郎から市場性の高い幸水へと品種更新したりしています。



りんご、なしとも大館市場を中心に、札幌市場などへ出荷されていますが、これまででは、個人の目と目による選果で共同販売態勢を取っていたため、品質、規格の不統一、量販体制の不徹底などにより、各市場で不利な販売をしてきました。

せわしさの中に

ゆとり

今年八月下旬に初稼動した選果所は、いま、フル稼

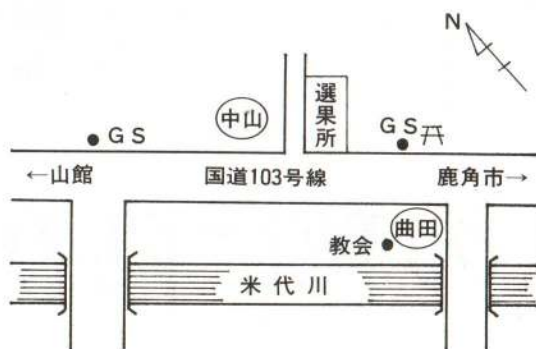
動中。栽培農家から搬入された、なし（幸水）の入ったコンテナが山のように積まれています。そのコンテナから、一個一個選別機の受け皿になしを乗せると、重量により自動的に選別（電子式重量選別）され、ダンボール箱にこん包（一〇グラム）

されます。そしてこれらのほとんどは、その日のうちに各市場へトラックで輸送されます。選果作業員など約十人がかりで一日に三百五十箱から四百箱を出荷。これが来年の二月ごろまで続きます。所内で作業する皆さんの目や手は、慎重に間断なく動いています。顔の表情からは、ゆとりが感じられます。

経営基盤の

安定向上

共同選果、こん包することにより、その軽減された労働力を着色などの肥培管理に回ることができ、高品質な果実を生産できます。また品質、規格を統一し共同販売することにより、今後さらに厳しくなるとされる産地間競争にあっても、有利に販売できると予想されますので、経営基盤の安定、向上が期待されています。



る産地間競争にあっても、有利に販売できると予想されますので、経営基盤の安定、向上が期待されています。

事業費内訳

- 総事業費 七千二百八十万円
 - 国庫補助金 三千三百万円
 - 市補助金 一千四百九十万円
 - 自己負担 二千四百八十万円
- ※金額の十万円未満は切り捨ててあります。

施設の概要

- 場所 大館市曲田字下谷地
- 建物 鉄骨一部二階建
- 面積 六二〇・三五平方メートル
- 選果機 電子式重量選別機 (三条一系列)

市長の対話ノート

情報化社会



No.184

情報化社会とは、どんな社会ですか。と問われたら、どう答えたらいかがと迷います。私は、ひと口で言えば「情報が新しい価値を生む社会」と答えたいと思います。

どんな情報でも、必要としない人からすれば、何の価値もありません。逆に、求めている人からすれば、平凡な情報でも平凡でない使い方ができます。「東京と違って田舎は情報不足で困る」などと、よく聞かれますが、そうではなくて、今ある情報を上手に使っていないのではないのでしょうか。つまり、情報とは「自分のレベル以上のものは入って来ない」のであって、「自分のレベルが上がれば、いくらでも入って来るもの」と言ってしまうのではないのでしょうか。付加価値を求めてのぎを削る時代、情報こそ生命です。自らをレベルアップして、情報を求め、生かす時です。じっとしているだけでは、情報も「馬の耳に念仏」になってしまう。

留山健治郎